

令和7年度（2025年度）大分大学グローバル感染症研究センター  
研究集会報告書

採択番号	2025M05	
申請者に関する事項	氏名	吉田 秀司
	所属機関名	大阪医科薬科大学医学部総合教育講座物理学教室
	職名	教授
研究集会名	第99回日本細菌学会総会	
開催期間	令和8年（2026年）3月21日（土）	
本センター担当教員	三好 智博	
<b>令和7年度（2025年度）研究集会の概要</b>		
<p>日本細菌学会総会は、細菌学・感染症学およびその関連領域における科学の進歩と社会貢献を目的としている。今回ご支援いただいた研究集会は、2026年3月20日～22日に広島国際会議場で開催された第99回日本細菌学会総会におけるシンポジウムS6：「細菌リボソーム研究の最前線：構造・翻訳制御・生命機能」のセッションである。本シンポジウムは、2026年3月21日（土）9:00-11:15に同会議場（第2会場・ヒマワリ）にて開催された。（座長：吉田秀司・大阪医科薬科大学、三好智博・大分大学）</p> <p>本シンポジウムでは、細菌リボソームの構造生物学・翻訳制御機構・生命機能に関する最先端の研究成果が国内の第一線研究者により発表され、活発な議論が展開された。リボソームは全生物に普遍的なタンパク質合成装置であるが、細菌特有の構造的特徴は抗菌薬の標的としても重要であり、基礎科学と臨床応用の双方において極めて大きな意義を持つ研究領域である。本セッションでは、ショットガンプロテオミクス解析や、クライオ電子顕微鏡法をはじめとする構造解析技術の革新的な進展を背景に、翻訳の精度制御・ストレス応答に伴うリボソームの動態・翻訳因子との相互作用など、多角的な視点から細菌リボソーム研究の現状と課題、及び共同研究の重要性が共有された。本シンポジウムの開催を通じて、細菌リボソーム研究に携わる研究者間の情報交換と相互理解が深まり、新たな共同研究の萌芽が生まれる機会となった。さらに、抗菌薬耐性問題が深刻化するなかで、細菌リボソームを標的とした新規抗菌薬開発に向けた基盤知識の共有という観点からも、本シンポジウムは社会的意義の高い成果をもたらしたと考えられる。</p>		